



福田たね（本名 野尻タネ）晩年の写真



「真鶴風景」 制作年不詳 カンヴァス・油彩



「明治時代の画学生」昭和41年（1966）紙・水彩



「家族（6人のわが子）」制作年不詳 紙粘土

ごあいさつ

栃木県芳賀郡東高橋村（現在の芳賀町）に生まれた福田たねは、長年 青木繁研究の一部として取り上げられてきました。しかし、たねの女流画家としての生涯はあまり知られていません。

そこで本展覧会では、たねの晩年の作品を中心に彼女の画家としての活動を振り返ってみたいと思います。

「理論では負けませんが手のほうが思うようにいきません」と晩年、たねは語っています。多くの芸術書を読み、芸術に対して貪欲に学んでいた様子がかげえまます。

69歳から本格的に画家としての活動を再開したたねは、昭和31年（1956）71歳にして示現会展に入選することとなります。その後、毎年出品し準会員にまでなります。その晩年の作品をどうぞご鑑賞ください。

また、今回 菊池健一作ステンドグラス「わだつみのいろこの宮」の下絵も展示いたします。あわせてご覧下さい。

関連ワークショップ 『絵手紙を描こう』

対象：小・中学生 参加費：無料 定員：25名

日時：8月12日（木）午後1：00～3：00

場所：総合情報館多目的室 申し込み締め切り：8月6日（金）

詳細は情報館までお問い合わせ下さい。

交通のご案内

- JR宇都宮駅西口3番乗場より祖母井、茂木方面行「芳賀温泉口マンの湯」下車
- 自家用車…北関東自動車道真岡I.Cから約30分／JR宇都宮駅東口から約30分

